

2006 年度

科目名 文章表現	対象学科・学年 文学部英米1回生 文学部文財1回生 文学部コミ1回生 教育教福1回生 人間人社1回生	担当者 井上 新子
授業テーマ 「正確な文章」を書くことを学ぶ		
授業の概要と目標 本講義は、「正確な文章」を書く能力を養成することを目的とする。適切な語彙や文章表現を用い、自分の考えや思いを誤解なく正確に読み手に伝えることは、現代社会を生きていく際さまざまな場面で必要とされる能力である。こうした要請にこたえるため、正確に文章を書き、正確に文章を読みとる練習を積み重ねることにより、論理的で説得力のある文章を書く能力を身につけることを目指す。		
評価方法 出席状況（20点）、課題の提出状況とその成績（80点）を勘案し、評価する。		
テキスト プリント配布。	著者	出版社
参考書 講義内で、適宜紹介。	著者	出版社
授業スケジュール・内容 毎回の講義は、概ね次の三部構成ですすめる。 - a 言葉のメンテナンス…語彙力、表現力、内容把握力等の基礎的能力養成のための練習問題を解く。なお、毎回ではないが、読解力養成のため、さまざまなジャンルの文章を味読してもらう短い時間を設けることもある。 - b 前回の課題への講評…前回提出してもらった課題へ添削を加えたものを返却し、注目作品・優秀作品等を紹介しながら、文章表現にあたって注意すべき点を指摘する。 - c 課題の説明と作成…当日の課題の提示と説明を行い、これに添って一定の時間内に指定された字数で文章を書く能力を実作によって養成する。 以下、「c 課題の説明と作成」の際に予定する各回の内容を示す。 1 書くことを楽しむ。 2 文章に必要な要素（5W1H）を確認する。 3 係り受けの関係に留意する。 4 自分にしか書けないことを書く。 5 自己を見つめる（自己客観化）。 6 論証的意見文を書く①。論証的意見文の構成と作成の手順。 7 論証的意見文を書く②。事実の報告と意見の提示。 8 論証的意見文を書く③。明確な根拠とともに意見を述べる。 9 論証的意見文を書く④。異なる意見へ反論する1。 10 論証的意見文を書く⑤。異なる意見へ反論する2。 11 論証的意見文を書く⑥。構成に留意する。 12 論証的意見文を書く⑦。説得力を高める工夫をする。 13 推敲・仕上げの重要性に留意する。 14 手紙文を書く①。 15 手紙文を書く②。 「a 言葉のメンテナンス」や「c 課題の説明と作成」は、概ね日本語文章能力検定協会による日本語能力検定試験にそった内容で作成されたものを用いる。最終的には、講義受講者がこの検定試験でより上位の級に合格できることを目指す。		